

建設部門



(福田内議員)

Q 町内の休耕地を団塊の世代の力で耕作できないか。

A 法令や農地の利活用の側面等から検討を行っていきたい。
(上馬場義文建設課長)

A 昨今の田舎暮らしブームや有機農法での新規就農希望等、新たな農業者のニーズはあるが、近隣農家とのトラブル発生の事例もあり、貸し手側と借り手側の思惑が一致する例は少ないと考えている。しかし、現に休耕地が存在していることや新たに農業に従事したいという方がいることもあり、今後も検討を行いたいと考えている。

Q 増えつつある休耕地の田畑を、団塊の世代の力で耕作はできないか。貸し方は固定資産税を減免したり、借り方が固定資産税を払う等方法はあると思う。町民の健康と町の活性化ができる取り組みを。



(山吹議員)

Q 広島熊野道路（トンネル）にETC設置はできないか。

A 現時点では難しいとのことである。
(上馬場達実都市整備課長)

A 管理運営している広島県道路公社へ聞き取りを行ったところ、導入は検討しているが、投資額が高額で償還期間の延長等マイナス要素が多く、設置に見合う理由の整理がつかない状況とのことであった。町としては、今後とも料金値下げを含め、ETC設置を始めたとする利便性向上につながる施策を要望していく。

Q 朝夕、料金所周辺は渋滞しており、回数通行券を利用しても時間が掛かる。料金所での渋滞解消は、車のストップ&ゴーの軽減により燃費を向上させ、騒音や排気ガスの軽減にもつながることから、ETC設置はできないか。



広島熊野道路料金所

(大瀬戸議員)

Q 生活道路のあり方について問う。

A 住民に密着した道路であることから、局部改良や安全確保に向けた維持管理に努めていく。
(古毛堂建設部長)



A 車両の離合が困難な場合や、曲がり切れない交差点の角切り等を重点に、地方特定道路整備事業によって拡幅工事を実施している。また、県道の拡幅工事により接道される町道についても、県道事業の影響部として、極力長い区間の改良を県に要望している。今後も、生活道路の利便性を高めるため、改良や維持管理を適正に行っていく。

Q 渋滞する交差点を迂回するため、小さな路地にまで車が入り込み、周辺の住民は利便性と安全性が脅かされている状況である。県道の整備が一段落すれば解消も考えられるが、予期せぬ場所が迷惑を被るのではと心配している。生活道路の利便性を確保するに当り、どのようなビジョンを考えているか。